

広報

# かみす

2023年

9/1・15

No.399

Kamisu public relations

折込 まなびアイかみす



神栖ディスカバリー

特集

## 市民を守る

消防署の最前線に迫る



Pick up

新型コロナウイルスワクチン接種…………… P8  
マイナポイント第2弾 申し込み期限は9月末です！ … P10

消防車両図鑑付き

関東大震災から今年で100年。コンビナートを有する神栖の消防署の“今”を紹介します。

AR 広報かみすが動き出す  
[COCOAR]アプリをダウンロードし表紙にスマートフォンをかざしてください。詳細は18ページ



[COCOAR]



特集

# 市民を守る

消防署の最前線に迫る

今年の9月1日で関東大震災から100年となります。そこで今回は、「防災の日」にちなみ24時間365日、休むことなく災害に備える神栖消防署を訪ねました。消防署の仕事は、そのすべてが市民の命と財産を守ることに繋がっています。



## コンビナート災害にも対応

サイレンを響かせてまちを走る消防車や救急車。行き先が気になって目で追ったり、運転中なら速やかに道を譲ったりした経験があるのではないのでしょうか？ そんな誰もがよく知る存在でありながら、どのような活動をしているのか、どういう装備があるのか、あまり詳しく知られてはいない消防署のしくみ。そこで今回は神栖消防署を訪ねてみました。鹿島地方事務組合消防本部には5つの消防署と1つの分署があり、その中で一番大きいのが神栖消防署です。特徴の一つは、コンビナート災害対応の3点セットと呼ばれる大型高所放水車・大型化学消防自動車・泡原液搬送車を有していること。もう一つは、非常勤の医師が救急隊に専門的なアドバイスをしていること。これらは全国的にみてもまれなことであり、非常に高水準な備えであるといえます。

さて、消防署のいろいろな仕事の  
中で、まず、いざというときに活動する消防隊、高度



救助隊、救急隊をご紹介しましょう。

## 消防隊 火災を消し止める！

火災が発生したとき、消火のため真っ先に駆け付けるのが消防隊です。火災調査係長の菅谷朋之すがやともゆきさんに、出勤までの動きを聞きました。

「消防指令センターから出勤指令が出ると、まず画面上で火災の場所を確認。一番近くの消火栓がどこにあり、どの車両がその消火栓を使用するか、さらに要救助者の有無などを確認して中隊長が活動方針を決めたら、防火衣を着て消防車に駆け乗る。そこまですを2分以内に行ないます。夜中に出勤指令が出ることもありますが、仮眠中でもぐっすり寝ている隊員はおらず、すぐ体が動きま

す」  
火を消して終わりではなく、その火災の出火原因を調べるのも重要な仕事です。一番燃え方が激しい場所を調べ、住人からも事情を聞き取って原因を探ります。

他にも、ガスなどの危険物が漏れ出したときの処置、救急隊の支援、ドクターヘリが離着陸するときの安全確認など、さまざまな場面で消防隊が活動しています。



②

①左から春秋総務グループ総括係長、菅谷さん(消防隊)、内野さん(救急隊)、高木さん(高度救助隊) ②高所での訓練施設 ③④特殊な資機材を使用した訓練を行なう高度救助隊 ⑤コンビナート災害対応の特殊な車両を所有している



①



⑤



④



③

### 高度救助隊 災害現場で人を助ける！

救助隊(レスキュー隊)は、火災や事故、自然災害などの現場で、逃げ遅れた人や動けない人を救出するのが主な任務です。平成30年9月1日、神栖消防署に配備された高度救助隊は救助隊や特別救助隊よりもさらに特殊な資機材を持ち、めったにない困難な事案にも対応できる部隊です。隊長の高木源史たかぎげんしさんに、その任務や装備について教えていただきました。

「高度救助隊の隊員16人は、要救助者や一般市民の目線に立って活動する、機動力ある救助隊」をモットーに、起こり得るさまざまな災害を想定して日々訓練をしています。特殊な資機材は、胃カメラのように建物の中を見る画像探索機、要救助者のかすかな声や音もキャッチする地中音響探知機、火災のときに要救助者を見つける熱画像直視装置、暗闇でも見える夜間用暗視装置、人が揺れを感じる前に知らせる地震警報機などがあります。現場で救助した方が無事に回復したという知らせをいただく



### 救急隊 救急車で病院へ運ぶ！

病气やけが、事故などで119番通報したときに駆け付けけるのが救急隊です。火事や災害のときに消防隊や高度救助隊と一緒に出動し、救助された人を病院に運ぶのも救急隊の役割。1日に平均7回出動し、消防署で最も忙しい部署です。救急救命士の内野孝うちのたかしさんに仕事の様子ややりがいを尋ねました。

「救急救命士を含む3人の隊員が救急車で出動し、病人やけが人を手当てしながら急いで病院に搬送します。救急救命士は医師の指示を受けて、心臓や呼吸が止まっている人に気管挿管による気道確保や点滴などの処置を行なうことができます。搬送した方が後日お礼を言いに来てくれたり、小学生から感謝の手紙をもらったりすることもあり、とてもうれしく励みになります」

ひっきりなしに出動指令が続く日もありますが、それでも「何か体調がおかしいと思ったら、すぐ119番してください」と話す内野さん。病人やけが人の命を救い、その家族や周囲の人の心にも寄り添える活動を心がけています。



# 消防車両図鑑



## 大型高所放水車 コンビナート災害対応

石油コンビナート火災や化学薬品火災など、人が近づけない火災現場で高所から効果的に注水、泡放射をすることができます。また、高所での人命救助活動にも活躍します。



黄色いバスケットに人を乗せ、高所で作業できる



## 泡原液搬送車 コンビナート災害対応

化学泡を発生させるために必要な泡消火薬剤(4,000リットル)を運ぶ車です。通常、大型高所放水車と大型化学消防自動車の2台とともに3点セットとして出動します。



## 水槽付消防ポンプ自動車

約2,000リットルの水を積んでいるため、消火栓とつながなくても出火建物の近くで早く消火活動を開始することができます。



## 資機材搬送車

資機材や物資の搬送を目的とした車です。大規模災害時には、後方支援車としてエアータントなどの必要資機材を運びます。



## 消防ポンプ自動車

消防活動の主力となる車で、一般的な火災防衛に一番よく使われます。水を積んだポンプ車よりも小型なので細い道にも入りやすく、水槽付消防ポンプ自動車への送水にも役立ちます。

鹿島臨海工業地帯を有する神栖の消防署には、特殊な車両がいっぱい。その一部を紹介します。

## 防災力を高めるために

出動がないときも、隊員はさまざまな仕事をしています。消防隊と高度救助隊は、消火や救助の訓練、資機材の点検をはじめ、建物の消火設備の検査業務、避難訓練や防災教育などを行っています。また救急救命士は医師を囲んだの検討会、病院での実習などで常に知識や技術を高めています。



またこうした業務のほか、隊員は事務も行ないます。

「事務は総務、警防、予防グループの3つに分かれていて消防署見学の対応、庁舎の維持管理、災害活動に関する報告書の作成、火災予防に関する書類の審査・指導などをそれぞれ協力しながら行なっています」と総務グループ総括係長の春秋直樹<sup>はるあきな</sup>さんが教えてくれました。

さて、9月1日は防災の日です。私たちに必要な防災の心構えについて、高木さんは次のように話します。



### 消防艇(鹿島港消防署)

鹿島港の海上防災の要として建造した船です。船舶火災、石油コンビナート火災および大規模災害時の消火活動、水難救助活動を行ないます。

## 大型化学消防自動車 コンビナート災害対応

約2,000リットルの泡消火薬剤を積んでおり、給水栓から取った水と混ぜて使用します。危険物施設火災や石油コンビナート火災などに威力を発揮します。



### 救助工作車

火災、交通事故、地震などあらゆる災害で人命救助活動ができるよう、ウインチ、クレーン、発電機、照明などを装備し、救助用資機材を積んだ車です。主に高度救助隊員が使います。



### 高規格救急自動車

救急救命士が乗車し、急病の人やけがをした人などを病院に搬送する車です。救命処置ができる資器材や装置などを積んでいます。



### 消防指揮車

災害現場へ出動した消防隊が組織的かつ効果的に活動できるよう、現場で指揮をするための車です。「危ない、下がれ!」など隊員の安全管理も行ないます。



### 支援車

集団災害や大規模災害など、多種多様な災害時の後方支援として活動します。緊急消防援助隊の要請を受けた場合は、人員や物資の運搬、宿営などさまざまな役割を担います。

「今年で関東大震災から100年、東日本大震災から12年が経ちます。あのような規模で災害が同時に多発すると、消防でも対応が困難になってしまいます。そんなときに大切なのが自助共助。それにより自分や周囲の人の助かる可能性が高くなります」

最後に神栖消防署から市民の皆さんへのメッセージをいただきました。

「消防署は皆さんの安全を守るところです。災害は起こらないに越したことはありませんが、ゼロにするのは困難です。そのため、火災、事故、急病のとき皆さんの命を助けるには何が最善かを職員一同で毎日考え、訓練を行なっています。神栖消防署があることで、少しでも市民の皆さんが安心して暮らせるよう、これから消防職員としての誇りを持ち業務に当たります。消防が必要なきときは119番してください」

皆さんもこの機会に、「いざというとき迷わず行動できるか」自分に問いかけてみませんか? そして、職場の避難訓練、地域の防災訓練、消防署が実施している救命講習などにぜひ参加して、防災力を高めましょう!